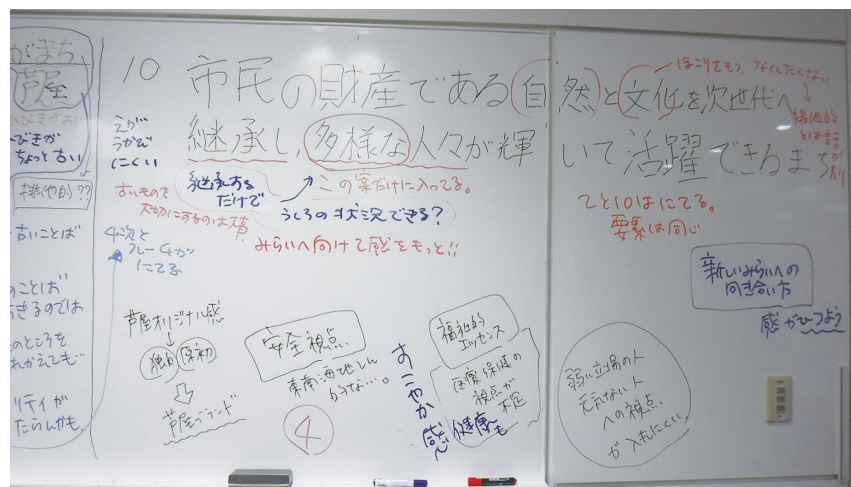
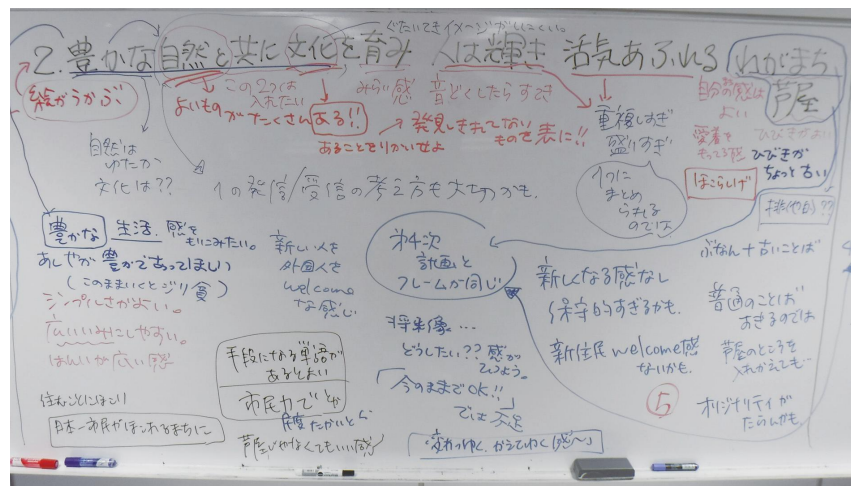
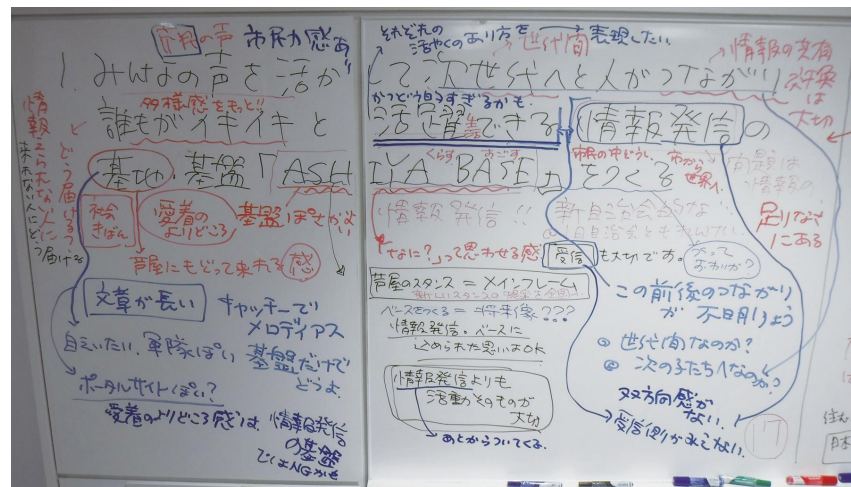


第4回ワークショップ

「芦屋の将来像」について全員で議論

まずは参加者から応募のあった34個のアイデアに対して、投票を行い、多くの票を得たアイデアをもとに、議論を進めていきます。票が多かった3つのアイデアに対して、いいところ、もっと良くできるところを全員で考えていきました。議論が進んでいくと、参加者それぞれの思いが出てきます。多くの方がいいなと思うアイデアに、それぞれの思いを足していくと、皆の意見をくみ取った文章に近づいていきます。ただし一方では、この作業を進めていくと、「よくあるフレーズ」になってしまうのではないか？芦屋らしさがもっと必要ではないか？などの意見も出されました。第4回は、「芦屋の将来像」のワークショップ案が決まることが目標でしたが、今回だけでは議論はまともならず、次回に持ち越されることになりました。



次回予告

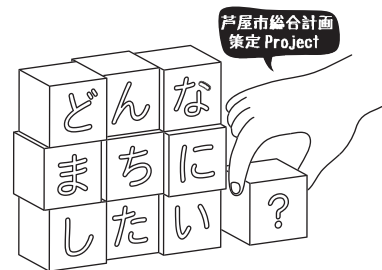
第5回市民ワークショップは1/19(土)です

(問い合わせ)
 芦屋市役所 企画部政策推進課
 芦屋市精道町7番6号
 TEL 0797-38-2127 (直通)
 FAX 0797-31-4841

SouKeiNEWS

No.03

芦屋市総合計画策定 Project 総計ニュース 第3号 2019年1月
 芦屋市政策推進課発行



2018.12.2(日) & 12.15(土)

第3回市民ワークショップ
分野を横断する「あるべき姿」とは?

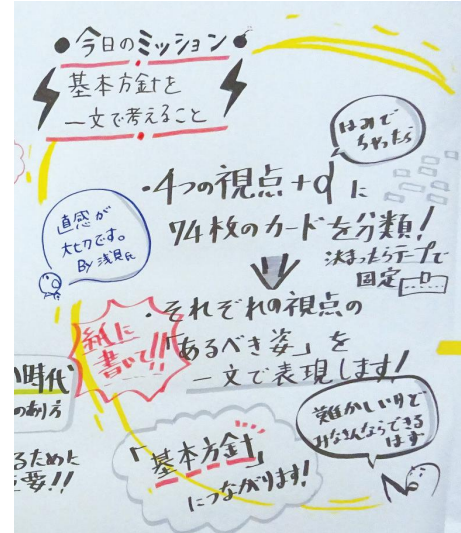
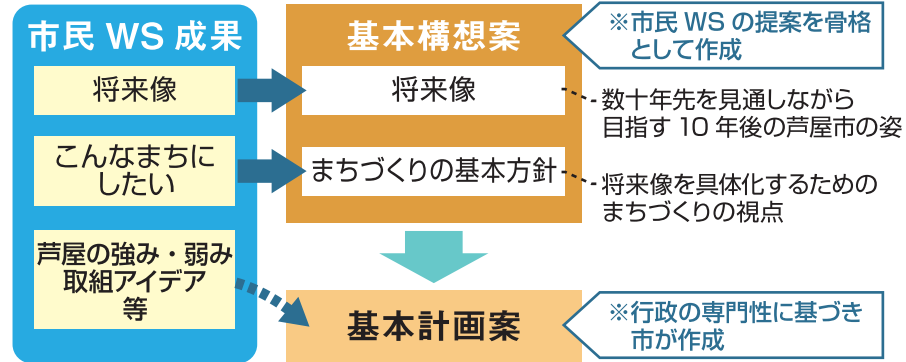
第4回市民ワークショップ
「芦屋の将来像」を言葉にしていく

第1回、第2回で出てきたたくさんの意見をもとに、このワークショップの目的である「将来の方向性」につながる「こんなまちにしたい(あるべき姿)」と「あしやの将来像」を考えるとところまでできました。これまでの具体的な意見から思いをくみ取り、抽象化していく難しいワークになりました。

第3回ワークショップ

これまでとこれからを確認

第3回は全5回の折り返し点でもありますので、このワークショップの位置づけを再確認し、これまでの振り返りと、これからの流れについてファシリテーターの浅見さんから説明がありました。



4つの視点 + a で「あるべき姿」を考える

前回、ワールドカフェ方式で話した分野別の「あるべき姿」についての意見を整理し、「目指すべき方向性」として74の意見を抽出しました。今回の議論のベースとして、これまでの議論の内容を踏まえ、事務局では基本方針のもとになる分野横断的な4つの視点を提案し、また違った視点を検討できるよう「+a」の枠を設けました。

74の意見(方向性)はこちらに掲載しています

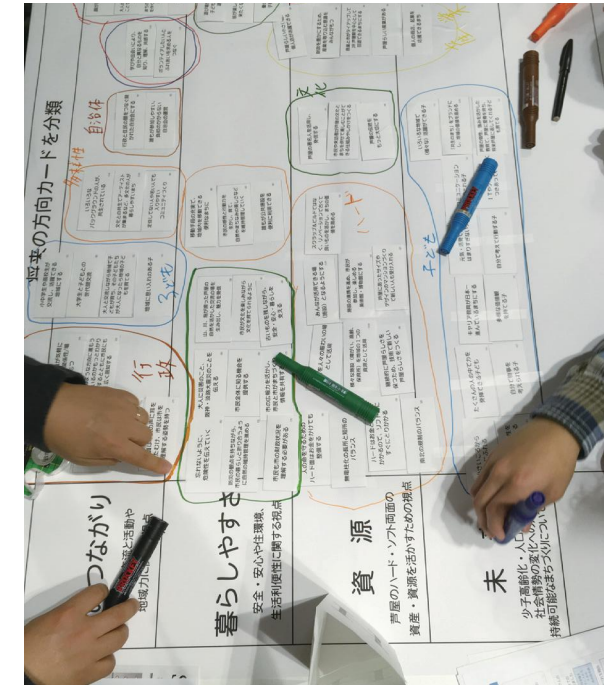


4つの視点 + a

人のつながり	市民間の交流と活動や地域力に関する視点
暮らやすさ	安全・安心や住環境、生活利便性に関する視点
資源	芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点
未来	少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについての視点
+a	上記に当てはまらない視点

STEP1
8テーブルに分かれ、まずは74の「目指すべき方向性」を4+aのフレームに当てはめていき、それぞれの視点がどの分野をカバーしているのか理解を深めていきました。その中で、視点が分野横断的に広がっていることや、方向性として足りていなかったことの気づきを得ることに繋がりました。

STEP2
STEP1のワークの後で、4つの視点ごとの「あるべき姿」を現す一つの文を作成しました。これまでの、具体的なことから織り交ぜながらの議論と異なり、大きな視点から抽象的な方向性を語る難しい作業でしたが、どのグループも時間内にアウトプットを終え、発表することができました。(次ページ)



「あるべき姿カード」をフレームの中に配置しながら議論

第3回市民ワークショップでの視点ごとのあるべき姿

括弧内のアルファベットはチーム名

人のつながり	<ul style="list-style-type: none"> (A) 市民と市職員が協力し開かれて地域のために世代をこえたコミュニティ作りをする (B) 市民と行政が協働し、温故知新の場ができる街 (C) 老若男女を問わず(世代横断)、新しいコミュニティと古いコミュニティの融合→イノベーション (C) 新たな場(まちの縁側)づくり 小・中・高・大学生のさらなる交流 (D) いろんな世代がどんどん入り、集い、ふれあうことで多様な価値観をもち、活発な流動・発展(=新陳代謝のよい)を行うコミュニティをつくる(なる) (E) 既存のコミュニティを含めて、基盤となるコミュニティを強化/多様な人たちの顔が見える関係をきづき、楽しめるコミュニティ作りを応援 (F) 多種多様な立場の人々が顔の見える場を通して、気軽に話し合える関係性が生まれる街 (G) 多様な価値観と世代間の交流がはかれる仕組みのあるまち (H) 今あるものも、これからできるものも、多様性を認め合うほどよい距離感でつながる
暮らやすさ	<ul style="list-style-type: none"> (A) 芦屋の豊かな自然を維持し、市民が安心安全に暮らせ、子育てができるまち (B) 芦屋の良さを活かした誰にとっても安心・安全でコンパクトな(まとまっている・アクセシビリティが高いという意味)暮らしやすい街 (C) 高齢者・主婦・障がい者など誰もが多様なスタイルで活躍できる多様性と包摂性 (C) きめこまかな情報共有強化(防災/コミュニティ/まちづくり/日常生活)※寝たきりの人にもきちんと伝える必要 (D) 人と人とのつながりを活かし、子どもから高齢者・全ての人にやさしく、住み続けたい街をデザインする。 (E) みんなに便利なまち 安心安全に暮らせるまち(情報発信・共有) 情報力のあるまち 充実した子育てができるまち (F) 自然との共生に折り合いをつけながら、安心安全な環境のもと子ども~高齢者、障がいのある方、それぞれのスタイルで活躍できる街 (G) 有事も視野に入れた地域格差のない公共施設の整備とそのために官民一体でとりくめるまち (H) みんなの声がとどいて、活かされるまち
資源	<ul style="list-style-type: none"> (A) 古いもの、新しいものがバランス 両方活かす(既にあるものを活用) (B) 今ある良さを皆が共有し、育んで循環させるまち (C) 芦屋オリジナルをみんなで共有し、住んでいる人が大切にしてい(どう活かすか?) (D) 古くからある文化・芦屋のイメージを残しつつ、新しいモノを受け入れ”芦屋をほこりに思える”芦屋市をつくる (E) 古き良きものを活かし自然と共生できるハード面の整備 (F) 芦屋の自然や文化資源を活かして未来の活動人口である子どもたちが育つ街 (G) 既存の自然や伝統・文化を活かした産業や教育が充実したまち (H) 文化、産業、イメージなどの既存資源を大事に時代とニーズに合ったものに変えていく
未来	<ul style="list-style-type: none"> (A) 子どもが活躍できる芦屋が活性化するような教育方法 (B) 多様な価値観を尊重し、全ての立場の人が共生・協働・働き方のイノベーションが起こるまち (C) 総合力 生きていく力をつけるキャリア教育 (C) 透明な意思決定プロセス 行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等オール芦屋で (D) 市民と行政がつながり、芦屋をよく知ること(情報発信・キャッチ仕組) 活気あふれ、希望のもてるまちを創造する (E) 芦屋の教育力、財政力、魅力(芦屋らしさ)を充実させて、人が住みたくなるまち→持続可能なまち (F) 芦屋のカラーが活きる街 カラーとは…色/特色 (G) ”芦屋らしさ”を共有でき、創出することができるとともに地域全体で子どもを育てることのできるまち (H) 世代問わず、誰でも活躍できるまちを次世代につなげる